資料3 第10回 高知県Next次世代型施設園芸農業に 関する産学官連携協議会(2022.8.24)

# 研究推進部会全体の成果と展開枠への進化について

# 研究推進部会の運営・取組

#### 運営方針

- 1. IoPクラウドのメインエンジン(生理生態AI&営農支援AI)の研究開発強化
- 2. 研究+政策+産業振興の視点でPDCAを徹底、KPI達成に向けて課題の選択·集中 (当初:77課題→R1: 63課題→R3:30課題)
- 3. IoPクラウドとの共進化、IoPプラットフォームの中長期的価値の永続的創出

## 令和4年度研究発表会・中間評価の概要

研究予算の効果的な配分を実施するため、令和3年度同様、令和4 年度においても研究費の20%については高知県で留保し、研究推進 部会で研究発表会及び中間評価を実施のうえ、評価結果に基づき再 配分を行う。

## 令和4年度IoPプロジェクト研究発表会

■ 小課題研究(30課題) 令和4年7月25日~8月8日 ※オンデマンド配信

### 令和4年度 中間評価

小課題研究30課題について中間評価を実施 評価期間:令和4年7月25日~8月2日

- 評価項目(50点満点・重み付け配点)
  - ①目指す成果の妥当性とKPIへの寄与(5 X 2 = 10点)
  - ②進捗状況(これまでの研究成果)(5 X 3 = 15点)
  - ③2027年までの研究計画・ビジョン(5 X 1 = 5点)
  - ④実装・普及への実現可能性・プロセス・高知県との連携状況 (5 X 3 = 15点)
  - IoPプロジェクト ⑤研究成果広報用資料 (5 X 1 = 5点) **■** HPに特設サイトを ※青字は昨年度から変更のあった評価項目 作成し公開予定
- 評価者

部会長・中心研究者・大課題リーダー・高知県担当者 計10人の 評価者のうち、各課題につき4人が評価を実施

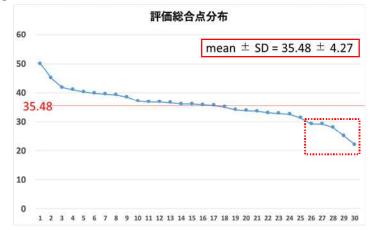
(各課題に高知県担当者を必須とする)

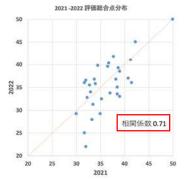
# 今後の課題・展望

- ✓ プロジェクト自走期間 (R5~R9) のKPI達成に向けたマネジメント
- ✓ 実装・普及に向けた取組みの推進(農家・JA・消費者との架け橋、企業との架け橋)
- ✓ 「展開枠」に向けた研究課題の創出・実施体制の構築

## 評価結果

- 30課題平均:総合評価 35.48点(50点満点) (評価項目ごと)
  - ① 3.62 X 2 = 7.24点 (10点) ④ 3.58 X 3 = 10.74点 (15点)
  - ② 3.68 X 3 = 11.04点(15点) ⑤ 3.09 X 1 = 3.09点(5点)
  - ③ 3.36 X 1 = 3.36点 (5点)





- 令和3年度中間評価結果 平均点: 36.35点、SD: ±4.00
  - →昨年度に比べて、若干ばらつきが 大きくなった。

特に下位の得点が下がった。

- 2021-2022の評価結果の相関について
  - →評価項目に変更はあるが、相関あり

# 「展開枠」への進化について

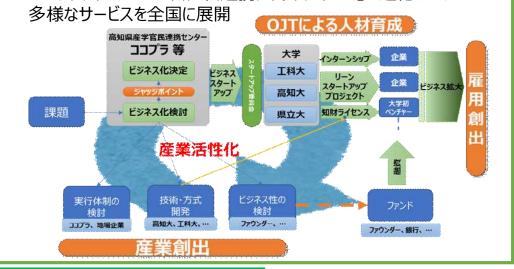
# (柱1)メインAIエンジンの深化と IoP未来農場群によるSociety5.0型農業の展開

無理なく無駄なく、楽しく稼げる「高知IoP発 Society5.0型農業」 のボーダレス展開によるNext次世代高知施設園芸の未来可能性



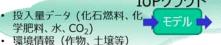
## (柱2) サブエンジン群の新規開発

IoPサブエンジン群の充実とNext次世代連携プラットフォーム構築 ○地域自律的課題解決による産業創出・雇用創出・人材育成 ○IoPクラウドを『Next次世代連携プラットフォーム』へ進化させ、



## (柱3) サステイナブル with IoP

カーボンニュートラル、循環経済、窒素循環に資するサスティナブルな IoP施設園芸の創成



温室効果ガス排出量

肥料吸収量

生量「見える化」

窒素利用効率

手法の 開発

〇未利用CO<sub>2</sub>、

○温室効果ガス発

温室効果ガス (CO<sub>2</sub>, N<sub>2</sub>O, CH<sub>4</sub>) 排出削減

Emission 1

Input 1 化石燃料 化学肥料 CO<sub>2</sub> 投入腳減

歴業系廃棄物、養液栽培排液の

高付加值值利用(循環経濟、窒素循環)

未利用熱の施設 Output 1 園芸での有効利用 収穫物の高収量。 技術・システムの 高付加価値化

Emission 1

○カスケード型養液栽 培システムの開発

開発

# (柱4)新たな高付加価値化等

倫理的消費(エシカル消費)推進によるIoP野菜のブランディング戦略 ○地域住民へのIoP野菜を使った食サービスやヘルスケアサービスにより コミュニティー形成を活性化し、地域住民参加による共助や世代間の 交流などを通じた街づくりを目指す。

### 野菜の機能性研究

健康寿命の延伸を 可能にする独創的 機能性研究

- 細胞・動物レベルで の評価とメカニズム 解析
- ・機能性化合物の同定
- ・ヒト試験への展開
- ·栄養機能性食品野菜 のシリーズ化





# loP(高知)野菜消費推進

## 野菜ユーザー支援と街づくり

- ・食堂運営による高知野菜食の惣菜・ 弁当販売
- ·健康相談、食事相談、生活支援、 介護予防、こころのケア

